

2、アメリカのオフ輪印刷

千葉大学名誉教授 松本和雄

1. まえがき

American Printer では、同誌の購読者を対象に e-mail によるアンケート調査を実施し、同社の親会社 PRIMEDIA のマーケティング研究部門と共同で解析を行って、「オフ輪印刷の展望」と題して毎年その結果を年末号に発表している。2003 年の調査では 20175 社、2004 年では 12927 社からの回答があった。ここでは 2004 年の調査すなわち「2005 年の展望」を中心に、「2004 年の展望」も参考にしながら、主としてデータを基に表題の内容を紹介してみようと思う。なお文中の年号は、特に断りがない限り、展望の年を表すことにする。

2. オフ輪印刷機の稼働状況

稼働状況とは「来年もそうあってほしい」という願望も含めた回答で、週7日の稼働が11%、6日が29%、5日が38%であった。この数字は2005年、2004年共全く同じであったが、週4日の稼働については2004年では6%、2005年では14%と、かなりの差があった。またシフトについては、両年ともヒートセットオフ輪では、2-3シフトが殆どであった。

3. 仕事の内容

(1) 商業印刷・広告印刷

商業印刷と広告印刷は、オフ輪の大きなセグメントの一つである。したがって回答を寄せた73.5%の企業が、両者を主体にオフ輪を稼働させているとのことである。しかし回答社の多くは、2005年には両者の受注が落ち込むのではないかとの危惧を持っている。

(2) カタログ類

カタログ類は、一時落ち込んだ時期があったが、現在ではほぼ復調している。その平均頁数について、次のような回答が寄せられている。

カタログ	2005年の平均予想頁数	備考
B-to-B カタログ	370.2	2002年の301頁に比べ23%増
Hybrid カタログ	166	過去2年で105頁から166頁へ増加
商品カタログ	82	2年前の91頁に比べ減少

(3) 書籍

海外生産に押されている。特に枚葉4色機による印刷ではその傾向が強い。Coffee Table Bookでは50%以上が中国生産である。

オフ輪に分野では、初等・中等教育用書籍の伸びは期待でき、今後年間6.9%が見込める。また高等教育用書籍も年間4.8%の伸びが期待できる。

しかし GAMIS(Graphic Arts Marketing Information Service)の研究によると、通販は減少を示す唯一のセグメントで、今後 10 年間で 6.8% 落ち込むだろうと予想している。

(4) ダイレクトメール

データベースマーケティングやより焦点を絞ったデータ発掘技術などが、ダイレクトメールのターゲットを効果的に搾り出し、結果としてスポンサーの数を増やしつつある。

ダイレクトメールの 2004 年における市場は、約 36 Billion ドルであった。今後 2010 年にかけて年平均 5.6% の成長（広告印刷は 4.8% と予想）が期待できるだろう、と GAMIS は分析している。また「2010 年までには、ダイレクトメールは、アメリカの全印刷広告メディアの 29% までにシェアを伸ばすであろう」とも分析している。

ダイレクトメールの場合、バリエーションコンテンツの増加が期待されている。しかし広告主の多くは、大量印刷による単価の低減を求めていることも否めない。

(5) 付帯サービス

2004 年の調査では、配送、在庫管理、メーリングサービス、フルフィールメントなどのような付帯サービスの増強計画を持っているところが 25.6% もあった。また同年の調査では、収益のかなりの部分を付帯サービスから得ている、と回答した企業が 32% にも達していた。しかし現時点では、付帯サービスについての請求はトータルで行っているため明細は明らかではなかった。

4 . 2004 年における設備増強の状況

2004 年度中に導入した設備については、次のようである。

CTP	27.4
メーリング・配送関連	25.6
枚葉オフセット印刷機	23.1
デジタルプレス	23.1
4色ブルーフシステム	17.9
サドルステッチャー	14.5
ヒートセットオフ輪	10.3
クイックセットオフ輪	8.5

表中の数字は%を示す

アンケートの結果では CTP の導入が最も多かったが、これは新規の導入ではなく、グレードアップ、サイズアップ、スピードアップなどによる追加導入であることを断っている。

CTP は既に成熟期を迎えていることからそれが頷ける。

ブルーフの多くはリモートブルーフで、リモートブルーフのみの利用が増えつつある。現在リモートのみの利用が 22% であった。

5. 現状を改善する最良の方法

印刷者は、オートメーションと効率の高いワークフローの利用によって、より高い収益性を確保すべきである。PDF がドキュメントやコンテンツの記述のためにスタンダードであるのと同じように JDF は、印刷におけるプロセスやワークフローをコントロールするためのスタンダードになりつつある。そのような中で、現状を改善する最良の方法をアンケートしたところ、次のような回答が寄せられた。

現状のマーケットでのセールスの増強	79.5
新しいマーケットへのセールスの増強	70.9
作業効率の改善	65
従業員の教育	60.7
機械の増強	36.8
後加工の増強	29.9
価格のアップを図る	28.2
プリプレスの増強	25.6
合併	13.7

表中の数字は%を示す

6. 現在直面している課題

アンケートに回答を寄せたオフ輪印刷関係者が、現在直面している課題を表記すると次のようになる。

競争の激化と価格の低迷	63.2
設備バランスの欠如	36.8
熟練技術者の不足	28.2
生産上の課題・問題	20.5
紙の価格高騰	12
デジタル技術の欠如	6.8
環境問題	4.3

表中の数字は%を示す

過去4年間において、印刷者が直面している最も大きな問題は、熟練技術者の不足である。今回のサーベイ回答者の61%は、よく訓練された技術者が現在の作業を大きく改善してくれるであろう、と述べている。またベンダーに対しては、新しい機械・装置はできるだけ操作を簡単にすべきである、との答えも返ってきている。

参考資料(1)

順位	2003年	1992年
1	出版	ヘルスケア
2	銀行・保険	ソフトウェア
3	通信	飲料
4	ソフトウェア	石油販売
5	不動産	ホテル
6	医薬品	医療機器
7	飲料	ノンバンク
8	自動車	家電
9	包装食品	ファッション
10	リフォーム	パッケージ食品
11	ファッション	空輸
12	ディスカウントショップ	タバコ
13	投資関連	ハイテクサービス
14	パーソナルケア	玩具・ゲーム・自転車
15	ヘルスケア	長距離電話
16	旅行・保養	医薬品
17	レジャー	コンピュータ
18	電子機器	自動車サービス部品
19	エネルギー	音楽記録
20	エンターテインメント	化粧品・化粧道具
21	フードサービス	家庭設備
22	高等教育	家庭用品
23	連邦政府	セキュリティー
24	宗教・慈善活動	カード類
25	セキュリティー	輸出サービス

参考資料(2)

- オフセット輪転印刷、2005年の展望；オフ輪ニュース、89号（平成17年3月）
- 環境対応のオフセットインキ；同上、88号（平成16年12月）
- JDFとプロセスオートメーション（続）；同上、87号（平成16年9月）
- JDFとプロセスオートメーション；同上、86号（平成16年7月）
- 2004年、オフ輪展望；同上、85号（平成16年3月）
- コンピュータ統合生産のための前段階；同上、84号（平成15年12月）
- アメリカの印刷関連統計；同上、83号（平成15年9月）
- 印刷工場のエネルギーを考える；同上、82号（平成15年6月）